

少子化の今だからこそ 輝く子育て



▲ 真剣な表情で沐浴の実習

4月26日に保健センターで母親学級が開催されました。妊婦さんを対象に、妊娠分娩の知識を得て不安を取り除くことや、同じ時期に生まれる子どもと親の輪をつくることを目的とし、3回に分けて行われます。この日は3回目、沐浴の実習があるため、お父さんやおばあちゃんも含めて5組10人の参加がありました。保健師の指導のもと、赤ちゃんの人形を用いて身体的特徴を学んだり、生後3カ月の赤ちゃん連れの先輩ママに体験談を聞いたり、沐浴やミルクの作り方も実際に経験しま

母親学級

した。またお父さんは、お腹に10のおもりをつける妊婦体験をしました。白金在住の森多繁人・雅子さんご夫妻は、「まったく知識がなかったのだからいろいろと教えてもらえて勉強になります。同じ年齢の子どもを持つお母さんと知り合いにもなれ、情報交換もできます」と話されました。

5歳の長男と3人で参加された若葉在住の原義宣・めぐみさんご夫妻は「1人目のときは母親学級に参加してなかったのですが、間があいて忘れていたこともあり、とても参考になります」と沐浴実習に真剣に取り組んでいまし



▲ ミルクの温度を肌で確かめます

近頃は、子育ての不安や悩み、仕事との両立など、さまざまな問題をよく耳にします。そんな中での子育ての中の方々の取材。しかし、どのお父さん・お母さんもとてもしよい顔をされ、輝いていました。それは、家族が強い絆で結ばれているからなのでしょう。親も子ども家族みんなが助け合い、支え合って毎日を積み重ねているのだと実感しました。少子化の時代、子どもは地域にとっても宝です。そんな宝を皆で見守り、育んでいきたいですね。【いながわ特派員】

編集後記



平成18年3月末の町の総人口3万1120人の内、15歳未満の人口は4890人です。出生数もここ数年横ばいで推移しています。しかし、自然に恵まれたこの土地でのびのびと子育てをしたいと、本町に移り住まれたご家庭も多いようです。

町内の現状



近年、全国的に少子化と言われ、厚生労働省発表の平成16年の統計では、一人の女性が生涯で生む子どもの数は1.29人だそうです。町内にはたくさんの子どものいる賑やかな家庭がありますが、皆さんの周りはいかがですか。今回は、まもなく生まれてくる赤ちゃんを心待ちにするご夫妻や、育児真っ最中の双子のお母さん、そしてたくさんの子育てを経験されたご家族の皆さんに、子育てに関するさまざまなお話をうかがいました。

いながわ 特派員報告



久保田 由美



中橋 弥里

町の子育て支援

町では、子育て学習センターや保健センターが中心となつて、さまざまな面から子育てを支援しています。新生児の戸別訪問に力を入れているほか、母親学級や育児相談なども行っています。今年度から新たに、出産退院後のお母さんの家事を手伝う子育て支援ホームヘルパーの派遣も始まりました。

びと子育てをしたいと、本町に移り住まれたご家庭も多いようです。

いつも仲良しの4人兄弟



育児を手伝うのは、お兄ちゃんとお姉ちゃん

横山和福・香織さん(若葉)

子ども達の無邪気な笑顔が溢れる横山家。横山さん宅には、悠太君(9歳)・遥風ちゃん(5歳)と双子の敦也君・智也君(1歳7カ月)の4人の子どもがいます。

近くに育児を手伝ってもらう祖父母がなく、さらに父親が仕事で多忙なため、母親の香織さんは育児を一手に引き受けています。そんな香織さんの心強い味方は、悠太君と遥風ちゃん。3番目の子どもが予想外の双子であったため、想像以上に大変な2人の弟の世話を悠太君と遥風ちゃんが手伝います。ミルクをあげたり、お風呂に入れるのを手伝ったり、遊んであげたり、できることは何でも協力しています。そういう時にはいつも、おっとりした性格の敦也君を優しいお兄ちゃんが、甘えん坊の智也君をやんちゃなお姉ちゃんが、面倒を見る形に自然と決まっています。

近頃、ますます活動的になってきた敦也君と智也君。大好きなお兄ちゃんとお姉ちゃんのすることを、何でも真似するようになってきました。

「子ども達がいると賑やかで楽しいです。とにかく元気に育ってほしいです」と、香織さんは子ども達をやさしく見つめられていました。

子育てはおもしろい

中井淳一・昌代さん(木津東山)

中井さんご夫妻には、22歳を筆頭に、一男五女の子どもがいます。

ご夫妻は、結婚当初から子どもを予定していたわけではあり

ません。きっかけのひとつは、4人いた子ども達の手がはなれ、心にゆとりができたことで、もっと子どもを育てたいとご夫妻で考えるようになりました。

ご夫妻の子育てのモットーは「自分のことは自分です」です。風呂掃除・米とぎなどの家事も当番制でしています。一方、家族同士のつながりも大切に、元気がないなど気になる様子の子があれば、その子の「強化月間」と称し、声掛けを多くするなど、みんなで見守ります。さらに何か問題が起こった時には家族会議を開き、時にはばつかり合いながら話し合いをします。

子ども達は兄弟が多いことについて「洋服やビデオの貸し借りができたり、相談にのってもらえるのはいいけど、何でも6等分したり、我慢することも多いです」と同じ意見でした。現在、一人暮らしをしている次女の香さんは「今は家に帰ると話し相手がいなくて寂しいです。でも実家は、賑やか過ぎますね」と微笑まれています。

ご夫妻は「子育ては、ままならないからおもしろい。親が教わることも多いですね。一人ひとりの細かい子育てはできませんが、そのぶんおのびのびと育っています。子ども達の中で社会ができ、自然にいろんなことを学んでいるようです」と語られました。



▲ にぎやかな家族団らんの様子